

様式

技術名称	防波堤港内側補強工法とブルーカーボン	技術の分類	防災・環境	NETIS登録の有無 (有場合はNETIS番号)	THK-120001-A (掲載期限終了技術)	
会社名等	日建工学株式会社	担当者	西村 博一	連絡先	03-3344-6811	
技術の概要	従来、防波堤港内側補強工法として採用されている捨石嵩上げ工は、コストや施工性が課題であった。一方、サブプレオフレーム(SPF)は、フレーム内の拘束された中詰石と下層の石が強固にかみ合うことにより滑動抵抗力を発揮し、コンパクトで安価な補強体を構築する。また、微細・小型藻類の生長促進効果を有する環境活性コンクリート(EAC)や柱状の多機能型藻場ブロックと組み合わせることにより、消波根固ブロックにおけるブルーカーボン生態系(海藻藻場)の創出が期待できる。	対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 国土交通省職員 <input checked="" type="checkbox"/> 港湾管理者 <input checked="" type="checkbox"/> 一般(施工業者・コンサルタント等含む)			
		添付資料	パンフの有無	有		
			その他の資料	技術概要		
技術の特徴	【経済性】低減する(最大70%減) ※EAC等を活用した場合、概ね1~30%程度増加する(増加割合は活用規模により異なる) 【安全性】向上する※工種が単純で、使用材料も少なく、潜水士を伴う施工期間が短縮されるため 【耐久性】同等 【品質・出来形】向上する ※工種が単純で、捨石均しなど熟練技術を要する数量(面積)が少ないため 【施工性】向上する ※工種が単純で、使用材料も少なく、波浪の影響を受けやすい浅海部での作業(捨石均しなど)が少ないため 【周辺環境への影響】軽減する ※占有する水域が小さく、漁業への影響を抑制するため	その他	設計条件に対する防波堤本体の作用耐力比(滑動、転倒、偏心傾斜、支持力)が1.00を大幅に超える(OUTとなる)場合は、SPFの所要個数が膨大となり、従来工法と比較してメリットが小さくなる。			

※複数の技術について発表をご希望の場合は技術ごとに記載願います。